

令和 5 年度 林業普及週間現地情報 (11/13-11/17)

森林管理課

リュウキュウマツ苗の生育不良

11月20日(月)

宮古森林組合から、「リュウキュウマツ苗の枯れが多い。理由は分かるか」等の相談があったため、11月16日(木)に、宮古森林組合の上原課長とリュウキュウマツ苗の状況について実際の苗を確認しながら聞き取りを行った。上原課長からは、「ある団体より、リュウキュウマツ植栽のために苗作りをお願いされたが、苗の枯れが多く、目標の苗本数を育てられず、混植で対応した。発芽はしても、成長していく段階で枯れていく苗が多かった。苗床は、赤土、パーライト、赤玉、CDU(肥料)、みのり(土壌改良材)を使用し、ハウスに入れ、水掛けは毎日行っていた。どこに、今回の枯れの原因があるか知りたい。」との話があった。

森林資源研究センターの久高主任研究員に相談したところ、「過去の論文では、一般的にリュウキュウマツは酸性土壌を好み、石灰岩風化土壌(島尻マージ:宮古島の大部分を占める土壌)において、発芽本数も得苗本数も、他の土壌に比べて良い結果が得られなかったと記述があるので、それも関係している可能性がある。」と助言をいただいた。さらに、散水用の水に石灰岩の成分が溶け出し、苗床の pH が高くなっている(酸性が低い)可能性もあるとのことで、苗床と散水用の水の pH を測定していただくこととなった。

今後も、森林資源研究センターと協力しながら、リュウキュウマツの生育不良の原因について解明していきたい。



枯死しそうな苗



枯死しそうな苗の根



育苗状況